

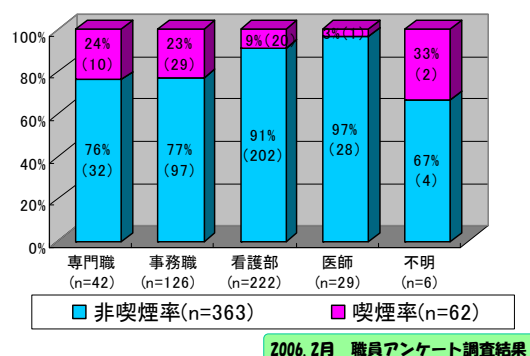
(題名) 職員喫煙意識調査と患者を含めた禁煙支援の現状

独立行政法人 労働者健康福祉機構 和歌山労災病院 内科(禁煙外来担当) 山本 康久

当院では、平成18年4月より建物内禁煙から敷地内禁煙となり、4月1日よりニコチン依存管理料、6月1日より禁煙指導によるニコチンパッチのレセプト請求が可能になるのに伴い、9月より保険での禁煙治療を開始している。そこで、現状把握と今後の方針を立てるため、平成18年3月の敷地内禁煙前に行った職員喫煙状況と意識調査の結果と、平成17年12月からの禁煙外来受診有無別のニコチネル TTS 処方例の禁煙成功率とアンケート調査の結果を検討した。職員425名の有効回答率は88%で喫煙率は約17% (男性30%・女性9%) で、部門別では医療技術部24%・事務部門23%・看護部9%・医師3%の順で、従来の報告に近い結果であった。健康増進法に受動喫煙対策の必要性の記載があることを知っている職員は49.2%で、患者さんの全面禁煙に賛成は34.8%で、患者さんに禁煙を勧めると答えた職員は23%にとどまった。またこの機会に禁煙しようと思っている職員は42%であった。また禁煙外来受診者は39人で平均受診回数は2.6回で、成功率は46.2%でその平均受診回数は3.2回であった。禁煙外来受診以外のニコチネル TTS® 処方人数は29人で、成功率は44.8%で平均1.6回の処方であり、複数回の継続支援が有用であるが、支援なしでも動機付けが来ていれば成功できることもうかがえた。禁煙外来受診者の内、ニコチン依存度別の禁煙成功率は依存度が高い群59%、普通群53%、低い群100%であった。禁煙の成功・不成功において喫煙タイプには差が見られなかった。また平成18年9月からの保険診療での支援実人数は約10名と少ないが、受診者が増加傾向にあり、それに対応できる支援者の教育と増員が必要と思われる。また敷地内禁煙後

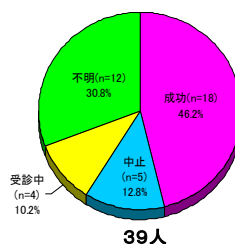
のかくれ吸いや集団喫煙等があり禁煙徹底が出来ていないが、幸い大きな混乱は無く経過している。入院時誓約書への禁煙の文言の組み入れや、複数の職員での敷地内喫煙防止巡回の実施を計画している。またニコチン依存度をさらに充分考慮に入れた禁煙支援を継続していく予定である。

【部門別喫煙率】



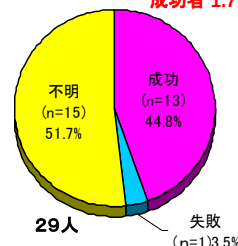
【禁煙外来受診者の成功率】

成功率: 46.2%
平均受診回数: 全体 2.6回
成功者 3.2回



禁煙外来以外でニコチネル TTS 処方者の成功率

成功率: 44.8%
平均処方回数: 全体 1.6回
成功者 1.7回



2006. 10月 ニコチネルTTS処方を受けた方へのアンケート調査結果

